

中国語のde(得)補語文の統語構造

楊, 郭
九州大学大学院

<https://doi.org/10.15017/19611>

出版情報：九州大学言語学論集. 31, pp.1-21, 2010. Department of Linguistics, Faculty of Humanities, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

中国語の de(得)補語文の統語構造

郭 楊

(九州大学大学院)

you@lit.kyushu-u.ac.jp

キーワード：格理論、de(得)補語文、名詞化辞

1. はじめに

中国語では、動詞を修飾する副詞成分が、(1)のように動詞の前に（「地(de)」を介して）あらわれる場合と、(2)のように動詞の後に（時に「得(de)」に後続して）あらわれる場合とがある¹。

- (1) ta anqing de shui zhe.
他 安静 地 睡 着。
彼 静かに de 寝る 進行 aspect
‘彼は静かに寝ている。’

- (2) a. ta shui de hen anqing
他 睡 得 很 安静。
彼 寝る de とても 静かだ
‘彼は寝るのが静かだ。’

- b. ta shui jiao hen anqing
他 睡 觉 很 安静。
彼 寝る 睡眠 とても 静かだ。
‘彼は寝るのが静かだ。’

- c. ta shui jiao shui de hen anqing
他 睡 觉 睡 得 很 安静。
彼 寝る 睡眠 寝る de とても 静かだ
‘彼は寝るのが静かだ。’

¹ 副詞成分が動詞の前に来る場合、その副詞は動作の進行状態や、完了様態を描写することが多いため、「着」などの進行や完了のAspect助詞が付く。これに対し、動詞を修飾する成分が動詞の後ろに来る場合は、その副詞成分は動作の性質や結果を描写し、文末に進行や完了のAspect助詞が付かない。

本論文では、(2)のように、動詞を修飾する成分が動詞の後ろに来る場合の構文について考察する²。

動詞を修飾する成分が動詞の後ろに来る場合、(2a,b,c)の三つの形式がある。(2a)のように副詞要素をそのまま動詞に後続させた「de(得)無し補語文」、(2b)のように副詞要素の前に「得」を付けて動詞に後続させた「de(得)補語文」、そして、(2c)のように、「得」の前に動詞が繰り返してあらわれる「動詞畳句 de(得)補語文」である。

これらの3つの構文³は容認可能になるための条件が異なっている。本論文は、その条件を明らかにし、格理論の観点から説明する。まず2節では、中国語の文構造の特徴について、本論文の前提としていることを説明する。次に3節で、英語の格理論に関する基本事項を英語の例を使って簡単に説明し、更に中国語に適した格理論の仮定を導入する。そして4節では、3節で導入した仮定に基づき、(2)の構文の制限について分析する。

2. 中国語の文構造

2.1. 中国語の語彙範疇

中国語の統語構造を考える際、まず決めておかなければならないのは、語彙範疇としてどういうものを仮定するかということである。多くの言語では、屈折のパターンなど形態論に基づいて語彙範疇の区別を規定している。しかし、よく知られているように、中国語には範疇の違いが形態に現れないので、この基準を援用することはできない。そこで、本論文ではStowell (1981)の θ -gridの概念に言及した範疇の区別を採用したい。

(3) θ -grid :

動詞や形容詞など述語の意味を成立させるのに、統語的に必要な意味役割(semantic role)の集合

本論では、中国語において θ -gridを持っている語彙範疇をVと呼ぶことに

² 一般に“V得”に後続する補語については、程度補語・状態補語・様態補語などと呼ばれている(朱(1982: 368-381)や刘・潘・故(2001: 201-205)等を参照)。本論ではそれらの名称の適切性については論じない。且つ、「de(得)」の後ろが従属節である場合は、本論では扱っていない。

³ 「de(得)」補語文を分析する先行研究は、例えば沈(1990)などがあるが、その紹介は紙幅のため、割愛する。

する。いわゆる形容詞や介詞も θ -grid を持っており、動詞と区別する一貫した方法が存在しないので、以下では、それらもすべて統語範疇としては V であるとみなす。

また θ -grid を持っていない語彙範疇は、それが V からの格付与を受けるか否かで、さらに区分したい。Case を付与されうる範疇は NP である。これに対して、Case を受け取ることのできない語彙範疇を Adv とする。

(4) 中国語の語彙範疇

V: θ -grid を持っている。格付与子になりうる。(形容詞や介詞も含む)

N: θ -grid を持っていない。格を付与されうる。

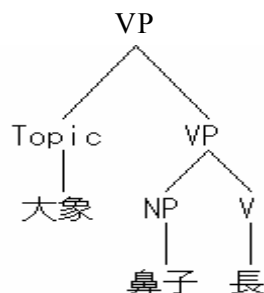
Adv: θ -grid を持っていない。格は付与されない。

2.2. 項と Topic

中国語と英語の文構造には、重要な違いが1つある。中国語では、項以外の位置に NP が生起することがあるのである。たとえば(5)は、直接、英語にうつしかえることのできない構文である。日本語の「象は鼻が長い」という構文と同様、「鼻子(鼻)」は「长(長い)」の項であるが、「大象(象)」は「鼻子长(鼻が長い)」全体が述部となる主体であり、「长(長い)」の直接の項ではない。この関係を構造で表すと、(6)になる。

- (5) daxiang bizi chang
 大象 鼻子 长。
 象 鼻 長い
 ‘象は鼻が長い。’

- (6) 「长(長い)」の語彙特性：<Theme>, Case
 (5)の構造⁴



⁴ 以下の樹形図では、通常の NP, VP と区別するために、便宜上 Topic 位置にある構成素のラベルを Topic としておく。

この構文から分かるのは、中国語は英語と違って、項でない NP の生起も許される。そして、本論ではこのような NP のことを Topic と呼ぶことにする。

Topic があらわれる位置は、文頭でなければならない。さらに、(7)で見られるように、文頭に2つの Topic が並ぶことも可能である。

- (7) [zhangsan] [shang ke] chi lingshi
 张三 上 课 吃 零食。
 张三 受ける 授業 食べる おやつ
 ‘张三が授業を聞く時におやつを食べる。’

3. 格理論と中国語

3.1. 格理論

よく知られているように、述語によって NP(参加者⁵)の数が決まっている。英語の場合、その数をこえて NP が生起することはない。たとえば、(8)の *hit* は二項動詞であるため、NP が二つ生起している(8a)は容認可能である。しかし NP が三つ生起している(8b)は容認不可能である。同様に、(9)の *cry* は一項動詞であり、NP が一つだけ生起している(9a)は容認可能であるが、NP が二つ生起している(9b)は容認不可能である。(10)の *give* は三項動詞であり、NP が三つ生起している(10a)は容認可能であるが、NP が四つ生起している(10b)は容認不可能である。

- (8) a. [IP Mary [VP hit John]].
 b. *[IP Mary [VP hit John Bill]].
- (9) a. [IP Mary [VP cried]].
 b. *[IP Mary [VP cried John]].
- (10) a. [IP Mary [VP gives John a flower]].
 b. *[IP Mary [VP gives John Kate a flower]].

(8b),(9b),(10b)が非文法的であるのは、「あらわれるべきでない位置」に NP があらわれているためであると考えられた。そこで、NP が生起できる

⁵ 「参加者」とは、ある行為・状態が成り立たせるためにかかわる人・物・概念のことである。

位置をとらえるために仮定されてきたのが、格フィルターという原理および(12)のような格理論である。

- (11) 格フィルター [Chomsky(1981) p.49(6)]
*NP, where NP has phonetic content and has no Case.
- (12) a. [-N] categories may assign Case; [+N] categories may not assign Case; [-N] categories may not be assigned Case; [+N] categories may be assigned Case.⁶
[Stowell (1976) p.145 (64)]
b. Case is assigned under government⁷. [cf. Haegeman (1991) p.160]
c. The Case assigner and the element to which Case is assigned should be adjacent. [Haegeman (1991) p.178]

(12)に従うと、音形のある NP が生起できる位置が制限できる。

- (13) *Him found the evidence. [Haegeman (1991) p.160 (10)]

(13)が非文になる理由は(12b)である。動詞 found が him を統率していないからである。

3.2. 中国語の文構造と格理論

2.2 節で、中国語では、動詞の項でない NP (Topic) の生起が許されることについて述べたが、更に、中国語の Topic には、次のような特性があると仮定する。

- (14) Topic 位置の NP は Case を必要としない。

(14)の仮定は、格理論の精神に反するものではない。NP そのものが Case を必要としているというよりは、Case は θ 理論との関わりで必要とされる

⁶ 英語では、動詞(V)と前置詞(P)が対格の Case assigner であり、定形節の INFL (INFL_[+Finite]) が主格の Case assigner であると考えられた。不定節の INFL は主格を付与できないと考えなければならない。次の文が非文だからである。

(i) *Him to come was totally unexpected.

⁷ 統率の定義については、本論に関係しないので割愛する。

という可視条件 (visibility condition) の考え方に従えば、(14)は当然の帰結である。Topic は θ 役割を付与されるものではないからである。

θ 理論の中心的原理は、 θ 規準 (θ -criterion) であり、これは、項と θ が一対一の対応関係にあると定めるものである。

(15) θ -criterion

Each argument bears one and only one θ 役割, and each θ 役割 is assigned to one and only one argument. [Chomsky (1981) p.36]

そして、NP が項になるためには、可視的(visible)でなければならない、Case を持たない NP は可視的ではない、というのが可視条件の考え方である。

(16) In order to be recognized as an argument of some predicate, an NP must be made visible. [Haegeman (1991) p.189]

(17) Abstract Case renders an NP visible. [Haegeman (1991) p.189]

このように考えると、Case が必要なのは、NP 全般ではなく、項となる NP だけだということが導かれる。だからこそ、Topic の NP には Case が不要なのである。ただし、可視条件を仮定すると、Case が与えられない PRO がどうして θ 役割を持てるのかという問題が生じる。ここでは、次のように仮定しておく。

(18) PRO は、Case を与えられなくても可視的である。

3.3. 中国語の他動詞

中国語においても、英語と同様、NP が生起できる位置には制限がある。

- (19) a. zhangsan da lisi
张三 打 李四。
张三 毆る 李四
'张三は李四を毆る。'
- b. *zhangsan da lisi wangwu
*张三 打 李四 王五。
张三 毆る 李四 王五

(19)の動詞「打(殴る)」は二項動詞であるので、NP が二つ生起している(19a)は容認可能であるが、NP が三つ生起している(19b)は容認不可能である。

ただし、中国語は屈折がないので、英語のように INFL という範疇を仮定することが適切であるとは思われない。そこで、中国語の場合、主語位置にある NP も、Case は V から付与されると考えたい。

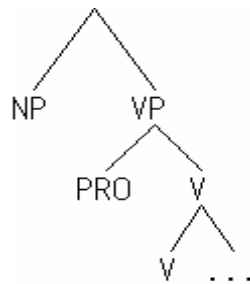
主語位置にある NP も V から Case を付与されるとすると、一つの V が複数の Case を持つこともあることになる。本論文の主張の一つは、中国語の他動詞には、Case を1つしか付与しないもの（すなわち、目的語位置の NP にのみ Case を付与し、主語位置には PRO しかあらわれないもの）と、Case を2つ付与するもの（すなわち、目的語位置にも主語位置にも Case を付与するもの）とがあるということである。(20)と(21)でそれぞれの具体例をいくつか挙げた。以下では便宜的に、Case を1つ付与する他動詞を格¹他動詞と呼び、2つを付与する他動詞を格²他動詞と呼ぶことにする。

(20) 格¹他動詞：用(使う)、做(する)、吃(食べる)...

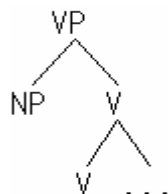
(21) 格²他動詞：爱(愛する)、见(会う)、等(待つ)...

それぞれのタイプの他動詞の項構造は次のようになっている。

(22) a. 格¹他動詞の語彙特性：<Agent, Theme>, Case



b. 格²他動詞の語彙特性：<Agent, Theme>, Case, Case



V の持つ Case の数は一つであるか複数であるかは V によって違っており、

そのVがいくつのCaseを持っているかはLexiconに記載されていると仮定する。他動詞を格¹他動詞と格²他動詞の2種類に分ける理由は、それらの振る舞いが違うからである。そのことを以下の構文において説明する。

3.3.1. 目的語前置構文

中国語では、目的語のNPがVの前に現れるSOV語順の構文がある。

(23) a. wo yong wan diannaο le
我 用 完 电脑 了。
私 使う 終わる パソコン aspect
'私はパソコンを使い終わった.'

b. wo diannaο yong wan le
我 电脑 用 完 了。
私 パソコン 使う 終わる aspect
'私はパソコンを使い終わった.'

しかし、この構文は、格¹他動詞では可能なものの、格²他動詞では不可能である。⁸

(24) a. wo ai si ni le
我 爱 完 你 了。
私 愛する 終わる あなた aspect
'私はあなたを愛し終わった.'

b. wo ni ai si le
*我 你 爱 完 了。
私 あなた 愛する 終わる aspect

このことは、(20)の格¹他動詞の場合、「主語」と動詞の間に別のものが介在できるのに対して、(21)の格²他動詞の場合には、「主語」と動詞の間に介在が許されないということを示している。

⁸ 目的語前置構文と3.3.2節の「ba(把)」構文において、非生物の目的語は述語の前に前置できるのに対し、生物の目的語はできないことが先行研究のLi & Thompson (1976)やHuang (1988)において指摘されてきている。確かに、その効果も無視できないものの、Caseの違いも関与している可能性があると考えている。

3.3.2. 「ba(把)」構文

目的語前置文の目的語の前に、前置詞 ba(把)が介在する構文もあるが、この構文が許されるのも、格¹他動詞の動詞だけであり、格²他動詞では許されない。

- (25) wo ba diannaoyong wan le
 我 把 电脑 用 完 了
 私 ba パソコン 使う 終わる aspect
 ‘私はパソコンを使い終わった’

- (26) wo ba ni ai wan le
 *我 把 你 爱 完 了
 私 ba あなた 愛する 終わる aspect

この現象も、格¹他動詞の場合、「主語」と動詞の間に別のものが介在できるのに対して、格²他動詞の場合には、「主語」と動詞の間に介在が許されないということを示している。

3.3.3. 対照的記述

(27)の構文において、格¹他動詞はその前にある NP について、多面性を表す対照構文が簡単に作れるのに対し、格²他動詞はできない。

- (27) 格¹他動詞

wo yong diannaoyong de hen shulian keshi xiezi xie de hen nankan
我 [用 电脑] [用 得] [很 熟练], 可是 [写字] [写 得] [很 难看]
私 使う パソコン 使う de とても 熟練 しかし 手書き 書く de とても 下手だ
‘私はパソコンを使うのはうまいが、字を書くのは下手だ。’

- (28) 格²他動詞

wo ai ni ai de hen shen keshi hen ta hen de shao
??[我 爱 你] [爱 得] [很 深], 可是 [恨 他] [恨 得] [少]
私 愛する あなた 愛する de とても 深い しかし 憎む 彼 憎む de 少ない
‘私はあなたへの愛は深いが、彼への憎悪は少ない。’

(27)と(28)のこの違いも、「主語」が動詞の最大投射の一部であるかどうかの違いによると考えられる。たとえば、(27)において、「我(私)」が「用(使

う)」の最大投射「用电脑(パソコンを使う)」の中に含まれていないとすると、「用电脑(パソコンを使う)」ということと「写字(字を書く)」ということとを対照的に述べることができて不思議ない。一方、(28)において、「我(私)」が「爱(愛する)」の最大投射「我爱你(私はあなたを愛する)」の中の要素であるとする、「我爱你(私はあなたを愛する)」という節と「恨他(彼を憎む)」という部分とを対照させると、釣り合いがとれないことになるからである。

4. de(得)補語文の統語構造

では、1節の(2)のそれぞれの構文について、どのような条件があるか、そして、それらを格理論の観点からどのように説明できるかを見ていく。

(29a)と(29b)は、いずれも de(得)の介在無しで動詞修飾成分を動詞に後続させた構文である。しかし、動詞によって、(29a)のように容認可能になるものと、(29b)のように容認不可能になるものがある。

- (29) a. wo yong diannaohen shulian
 我 用 电脑 很 熟练
 私 使う パソコン とても 熟練している
 ‘私はパソコンを使うのがうまい。’
- b. *wo ai ni hen shen
 *我 爱 你 很 深
 私 愛する あなた とても 深い

さらに、(29a,b)を、動詞部分を繰り返した動詞疊句「得(de)」補語文にすると、いずれも容認可能になる。

- (30) a. wo yong diannaohen yong de hen shulian
 我 用 电脑 用 得 很 熟练
 ‘私はパソコンを使うのが上出来だ。’
- b. wo ai ni ai de hen shen
 我 爱 你 爱 得 很 深
 ‘私はあなたを深く愛している。’

以下では、この(29)-(30)のようなパターンについて考察していく。

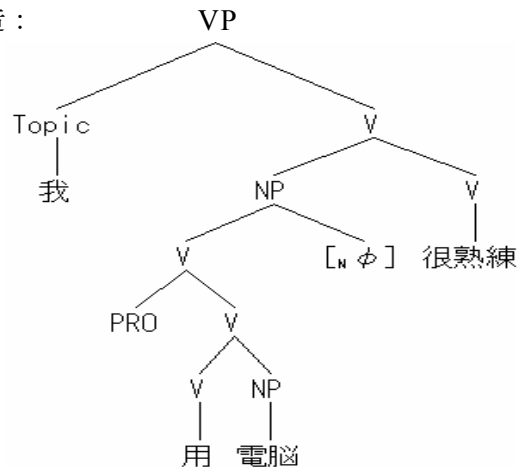
4.1. de(得)無し補語文の統語構造

(29a)と(29b)は、表面的には同じ[NP₁ V NP₂ V]という語順の構文であるが、ここでは、(29a)は(31)のような構造になっていると考えたい⁹。

(31) 「用(使う)」の語彙特性：<Agent, Theme>, Case

「很熟练(熟練だ)」の語彙特性：<Theme>, Case

(29a)の構造：



ここで前提としているのは、次のような中国語の格理論である。

- (32) a. 中国語の統語範疇は、V, N, Adv であり、そのなかで Case assigner になれるのは V のみである。
 b. 付与すべき Case を一つしか持っていない V と複数持っている V とがある。

しかし、(32)の提案だけでは、何故(29a)は容認可能なのに、(29b)は容認不可能なのかを説明することができない。そこで(32)の格理論の提案に加え、次の提案をしたい。

(33) Case を受け取ることができるのは NP だけである。

(34) (29a)の場合、「用 电脑 (コンピュータを使う)」が名詞化辞[N φ]によって NP となっている。

⁹(31)の図で、「用(使う)」の二つ目の項の位置が PRO になっているのは、この動詞が一つしか Case を与えられないからである。

まず[Nφ]という項目について説明する。中国語の VP と NP は形態によって区別することができない。

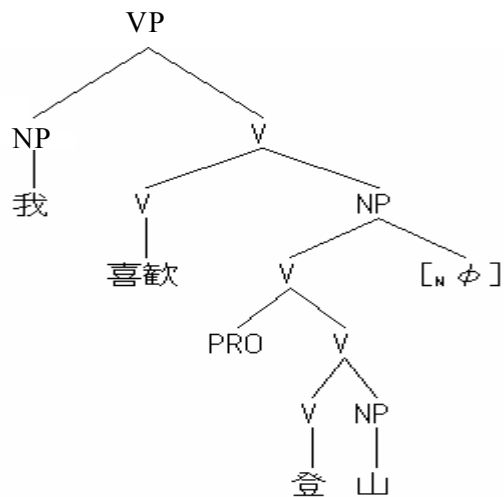
(35) a. wo xihuan dengshan
 我 喜欢 登山。
 私 好きだ 登山
 ‘私は登山が好きだ。’

b. wo dengshan
 我 登山。
 私 登山する
 ‘私は登山する。’

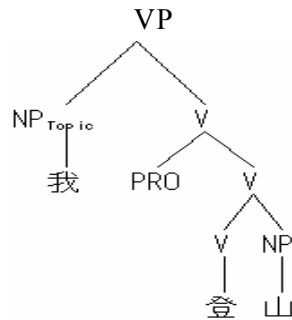
(35b)では、「登山」は明らかに VP であるが、(35a)の「喜欢(好きだ)」は Case を二つ持っているので、「登山(登山)」が NP であると考えたほうが望ましい。そこで音形を持たない名詞化辞[Nφ]を仮定すれば、(35a)と(35b)の構造が明らかになる。

(36) a. 「喜欢(好きだ)」の語彙特性：<Agent, Theme>, Case, Case
 「登(登る)」の語彙特性：<Agent, Theme>, Case

(35a)の構造



- b. 「登(登る)」の語彙特性：<Agent, Theme>, Case
(35b)の構造



このように、(31)が容認可能な文であることを説明するため、前節で提案した(32)に加え、(33)と(34)を提案した。中国語の VP と NP は、同じ形態であるため区別がないように見えるが、文構造としては VP と NP という区別が必要だという主張である。

4.2. de(得)無し補語文

では、なぜ(29b)は(29a)の構造になれないのだろうか。ここで、(29a)のパターンになる例と(29b)のパターンになる例とで、動詞が異なるという点に注目したい。(29a)と同じパターンになる例としては、ほかに(37)のようなものがある。

- (37) a. wo yong diannaohen shulian
我 用 电脑 很 熟练
私 使う パソコン とても 熟練だ
'私はパソコンを使うのがうまい。'
- b. wo qi chuanguang zao
我 起 床 早
私 起きる ベッド 早い
'私は起きるのが早い。'
- c. wo shuohuamanchuan
我 说 话 慢
私 しゃべる 話し 遅い
'私はしゃべるのが遅い。'
- d. wo chifan duoyao
我 吃 饭 多
私 食べる ご飯 多い
'私はご飯を食べるのが多い。'

- e. wo xiang wenti fuza
 我 想 问题 复杂
 私 考える 物事 複雑だ
 ‘私は何でも複雑に考える。’
- f. wo zou lu kuai
 我 走 路 快
 私 歩く 道 早い
 ‘私は歩くのが早い。’
- g. wo ting ke renzhen
 我 听 课 认真
 私 聞く 授業 まじめだ
 ‘私は授業を聞くのがまじめだ。’
- h. wo zuo fan haochi
 我 做 饭 好吃
 私 作る ご飯 おいしい
 ‘私はご飯を作るのがうまい。’

これに対して(29b)と同じパターンになる文としては、次のような例¹⁰がある。

- (38) a. *wo ai ni hen shen
 *我 爱 你 很 深
 私 愛する あなた とても 深い
- b. *wo deng ni hen lei
 *我 等 你 很 累
 私 待つ あなた とても しんどい
- c. *wo jiaoyu erzi hen hao
 *我 教育 儿子 很 好
 私 教育 息子 とても 上手だ
- d. *ta piping xuesheng hen yanli
 *他 批评 学生 很 严厉
 彼 叱る 学生 とても 厳しい

¹⁰(38e)と(38d)の例文の容認可能性には、個人差が見られる。その理由は、今後の研究で明らかにしたい。

- e. *wo xuan banganbu hen jinshen
 *我 选 班干部 很 谨慎
 私 選ぶ 班委員 とても 慎重だ
- f. *xuexiao jihe xuesheng hen zao
 *学校 集合 学生 很 早
 学校 集める 学生 とても 早い

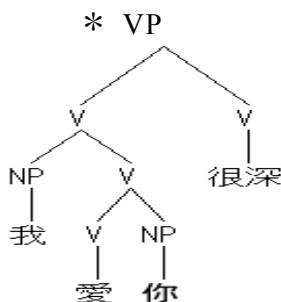
ここまでの仮定に加え、次のような提案をしたい。

- (39) a. 名詞化辞φは、二つの Case を持った VP は取れない。
 b. V の持っている Case は、すべて放出してしまわなければならない。

そこで、(29b)の構造は、(39)に基づいて(40)のように仮定する。

- (40) 「愛(愛する)」の語彙特性：< Agent, Theme >, Case, Case
 「很深(深い)」の語彙特性：< Theme >, Case

(29b)の構造



「愛(愛する)」は付与する Case を 2 つ持つため、(39a)により名詞化辞φが生起することができない。そうすると、V「很深(とても深い)」の持っている Case を受け取る NP が存在しないため、(39b)によって、(29b)が排除されるのである。

また、(39b)を仮定するならば、格フィルターおよび(18)の仮定が不必要になるということに気がついてほしい。Topic は、Case がなくとも解釈されるために格フィルターの例外になるというよりは、(11),(12)は(39b)が満たされているからこそ、Topic が Case を受け取る必要がないのである。

4.3. 動詞疊句 de(得)補語文

さて、(41),(42)で示しているように、動詞疊句 de(得)補語文の場合は、どちらのタイプの動詞でも、文法的になる。

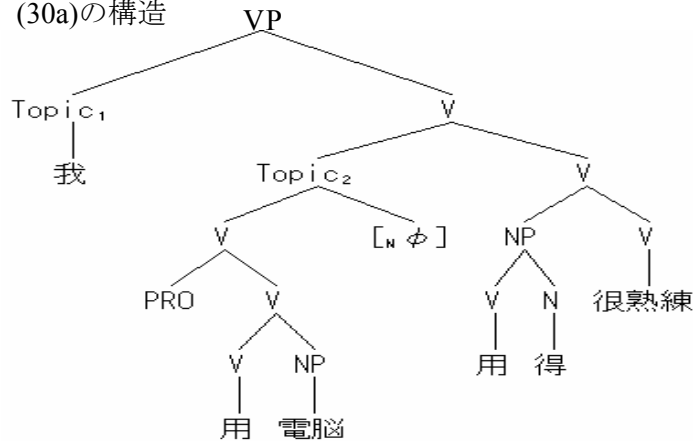
- (41) a. wo yong dianna yong de hen shulian
我 用 电脑 用 得 很 熟练
'私はパソコンを使うのがうまい.'
- b. wo qi chuang qi de zao
我 起 床 起 得 早。
'私は起きるのが早い.'
- c. wo shuo hua shuo de man
我 说 话 说 得 慢。
'私はしゃべるのが遅い.'
- d. wo chi fan chi de duo
我 吃 饭 吃 得 多。
'私はご飯を食べるのが多い.'
- e. wo xiang wenti xiang de fuza
我 想 问题 想 得 复杂。
'私は考えるのが複雑だ.'
- f. wo zou lu zou de kuai
我 走 路 走 得 快。
'私は歩くのが早い.'
- g. wo ting ke ting de renzhen
我 听 课 听 得 认真。
'私は授業を聞くのがまじめだ.'
- h. wo zuo fan zuo de haochi
我 做 饭 做 得 好吃。
'私はご飯を作るのがおいしい.'
- (42) a. wo ai ni ai de hen shen
我 爱 你 爱 得 很 深。
'私はあなたを深く愛している.'
- b. wo deng ta deng de henl ei
我 等 他 等 得 很 累。
'私は彼を待つのがしんどい.'
- c. wo jiaoyu erzi jiaoyu de hao
我 教育 儿子 教育 得 好。
'私は息子を教育するのが上手だ.'

- d. ta piping xuesheng piping de hen yanli
 他 批评 学生 批评 得 很 严厉
 ‘彼は学生を叱るのがひどい。’
- e. wo xuan banganbu xuan de hen jinshen
 我 选 班干部 选 得 很 谨慎
 ‘私は班委員を選ぶのが慎重だ。’
- f. xuexiao jihe xuesheng jihe de hen zao
 学校 集合 学生 集合 得 很 早
 ‘学校は学生を集めるのが早い。’

(30a)と(30b)の構造は、次のようになっていると考えたい。

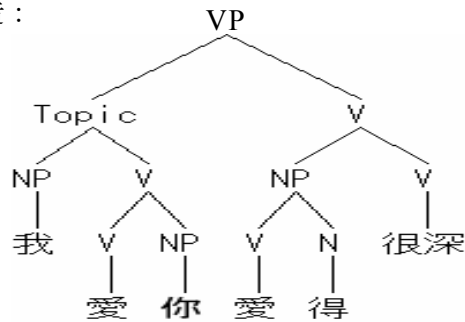
- (43) a. 「用(使う)」の語彙特性：<Agent, Theme>, Case
 「很熟练(熟練だ)」の語彙特性：<Theme>, Case

(30a)の構造



- b. 「爱(愛する)」の語彙特性：<Agent, Theme>, Case, Case
 「很深(深い)」の語彙特性：<Theme>, Case

(30b)の構造：



(43)の図で示しているように、「得(de)」も名詞化辞の一つである。ただし、「_N φ」の場合とは違って、次のような特性を持っていると仮定する。

(44) 名詞化辞「得」は、動詞のもつ Case をすべて吸収する。

(43b)で「很深」の項になっているのは、「爱得」である。名詞化辞「得」は「_N φ」と異なり、どのような動詞でも名詞化することができ、「爱得」は、「很深」の Case を受け取る NP となる。

同様に、(43a)でも、主文の V「很熟练」の Case を受け取っているのは、「用得」という NP である。(43a)の文の場合、Topic の位置を 2 つ仮定しているが、この仮定そのものは不自然ではない。そのことは、次の例文を見てもわかる。(45)では、一つ目の Topic が主題となり、二つ目の Topic が対照を表す句として働いているのである。

- (45) a. wo qi chuang qi de zao keshi shuijiao shui de wan
我 起_{V1} 床_{N1} 起得早, 可是 睡_{V2} 觉_{N2} 睡得晚
‘私は起きるのが早い、寝るのが遅い。’
- b. wo shuo hua shuo de man keshi banshi ban de kuai
我 说_{V1} 话_{N1} 说得慢, 可是 办_{V2} 事_{N2} 办得快
‘私はしゃべるのが遅いが、ことを済ませるのが早い。’
- c. wo chi fan chi de duo keshi he shui he de shao
我 吃_{V1} 饭_{N1} 吃得多, 可是 喝_{V2} 水_{N2} 喝得少
‘私はご飯を食べるのが多いが、水を飲むのが少ない。’
- d. wo xiang wenti xiang de fuza keshi jiejie wenti jiejie de caoshuai
我 想_{V1} 问题_{N1} 想得复杂, 可是 解决_{V2} 问题_{N2} 解决得草率
‘私は考えるのが複雑だが、問題を解決するのが適当だ。’
- e. wo zou lu zou de kuai keshi paobu pao de man
我 走_{V1} 路_{N1} 走得快, 可是 跑_{V2} 步_{N2} 跑得慢
‘私は歩くのが早い、走るが遅い。’
- f. wo ting ke ting de renzhen keshi zuozuoye zuo de buhao
我 听_{V1} 课_{N1} 听得认真, 可是 做_{V2} 作业_{N2} 做得不好
‘私は授業を聞くのがまじめだが、宿題をやるのがよくない。’
- g. wo zuofan zuo de haochi keshi shoushi fangjian shoushi de bushanchang
我 做_{V1} 饭_N 做得好吃, 可是 收拾_{V2} 房间_{N2} 收拾得不擅长
‘私はご飯を作るのがおいしいが、部屋を片付けるのが下手だ。’

このように、動詞畳句 de(得)補語文の「de(得)」は、どんな V でも名詞化できる名詞化辞だと考えることによって、うまく分析できる。

5.まとめ

本論文では次の主張を行い、それにより、ここで取り上げてきた3つの構文の条件がうまく説明されることを示してきた。

(4) 中国語の語彙範疇

V: θ -grid を持っている。格付与子になりうる。

N: θ -grid を持っていない。格を付与されうる。

Adv: θ -grid を持っていない。格は付与されない。

(46) a. 格¹他動詞は、付与する Case を一つだけ持っている。

b. 格²他動詞は、付与する Case を二つ持っている。

(47) a. Case を受け取ることができるのは NP だけである。

b. V の持っている Case は、すべて放出してしまわなければならない。

(48) a. 名詞化辞 ϕ は、二つの Case を持った VP は取れない。

b. 名詞化辞「得」は、動詞のもつ Case をすべて吸収する。

(4)と(46)と(47)の提案は、中国語の様々な構文に対して一般的に適用する。

(48)は de(得)補語文の分析に際して新たに提案したものである。

中国語の場合、範疇の区分や格付与の条件など様々な面において英語と異なっている。本論文は中国語に適した格理論をあらためて考察するところから出発し、de(得)補語文の統語構造を中心に新しい分析を提案した。

謝辞

本稿の執筆にあたり、上山あゆみ先生をはじめ、稲田俊明先生、坂本勉先生、久保智之先生から様々なご指摘をいただきました。また、匿名査読者からも貴重なコメントをいただきました。ここに記して感謝を申し上げます。無論、本稿における議論の不備や誤りの責任は筆者にあります。

参考文献

- Chomsky, Noam (1981) *Lectures on Government and Binding*. Dordrecht: Foris.
- Chomsky, Noam (1986) *Barriers*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Chomsky, Noam. (1995) *The Minimalist Program*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Haegeman, Liliane (1991) *Introduction to Government and binding theory*. Oxford, U.K.: Blackwell.
- Huang, C.-T. James (1987) Existential Sentences in Chinese and (In)definiteness. In: Eric Reuland and Alice ter Meulen(eds.) *The representation of (In)definiteness*: 226–253. Cambridge, MA.: MIT Press.
- Huang, C.-T. James (1988) *Ma pao de kuai* and Chinese Phrase Structure. *Language* 64: 274–311.
- Huang, Shi-Zhe (2006) Property theory, adjectives, and modification in Chinese. *Journal of East Asian Linguistics* 15: 343-369.
- 北川善久・上山あゆみ (2004) 『生成文法の考え方』 東京: 研究社.
- Li, Charles N. & Thompson, S. A. (1976). Subject and topic: a new typology of language. In Charles N. Li (Ed), *Subject and Topic* (pp.457-461). Austin: University of Texas Press.
- Stowell, Timothy (1981) Origins of phrase structure. Unpublished doctoral dissertation, MIT.
- 刘月华・潘文娉・故韡 (2001) 『实用现代汉语语法(增订本)』 北京: 商务印书馆.
- 沈力 (1990) 「中国語の結果補語を取る[V-得]文の構造について」 『言語学研究』 9: 58-92.
- 朱德熙(1982) 『语法讲义』 北京: 商务印书馆.

The syntactic structure of *de*-complement constructions in Mandarin Chinese

GUO Yang

(Graduate School of Humanities, Kyushu University)

This paper concerns the so-called *de*-complement constructions in Mandarin Chinese, which is the construction in which the verb is followed by a complement marker *de* and the repeated verb. It starts with the assumptions that the Case theory of Mandarin Chinese should contain the following statements.

- (i) Chinese has V, N and Adv as syntactic categories. Among them, only V can be a Case assigner.
- (ii) All the Cases must be discharged.
- (iii) Some transitive Vs in Chinese assign two Cases, while the other transitive Vs assign only one Case.

This paper then proposes that Chinese has at least two types of nominalizers; one is the element *de* in *de*-complement constructions, and the other is ϕ . It is shown that the properties of *de*-complement constructions are accounted for by positing that these elements have different conditions in distribution, specified as follows.

- (iv) Nominalizer *de* can attach to any type of V, and absorbs all the Cases that the V has.
- (v) Nominalizer ϕ cannot attach to Vs having two Cases.

(初稿受理日 2010年3月2日 最終稿受理日 2010年7月21日)